

第40期 事業報告書

令和6年 4月 1日から

令和7年 3月31日まで

事業報告書

貸借対照表

損益計算書

株主資本等変動計算書

明知鉄道株式会社

令和6年度 事業報告について

経営成績の概況

昭和9年6月24日に開業して以来、90周年の節目の年にあたります。90年の間に経営主体が変遷したにもかかわらず、地域の皆様に支えられたことに感謝するとともに、利用の契機となる記念事業を企画しました。引き続き、地域に根ざした公共交通機関として活用して頂けるよう安全、安定輸送の確保を最優先課題としつつも、多くのお客様に利用して頂き持続性・利便性の高い経営を目指し取り組みました。

この結果、当期における全事業の営業収益は、2億1,676万円(前期比+643万円、103.1%)、営業費は3億6,931万円(前期比+3,405万円、110.2%)。

営業損益は、1億5,256万円の損失(前期比2,762万円の損失拡大)。

経常損益は、1億2,542万円の損失(前期比2,421万円の損失拡大)。

特別損益を加えた税引前当期純損益は、82万円の利益(前期比▲480万円、14.6%)。

当期損益は、184万円の損失(前期比▲440万円)となりました。

また、これにより当期未処理損失は、2,143万円(前期比184万円の損失拡大)となりました。

これをセグメントごとに示すと以下のとおりとなります。

1 鉄道事業

令和6年度の運転概況について、7月、10月の大雨や令和7年3月、湿った雪の影響による倒木のため、運休が発生しました。その他は、概ね順調な輸送が提供出来ました。

また、車両検査における不適切事案として令和6年7月、新山口駅構内で貨物列車が脱線する事故が発生し、調査過程において輪軸組立作業における基準値改ざんが判明しました。このため9月、国土交通省は全国の鉄軌道事業者に対し、輪軸に関する緊急点検を指示したところ、当社車両においても業務委託会社から不適切な事案あったとの報告を受けました。データ確認の結果、安全が担保されている車両であったことから使用を継続し、委託会社に対しては規程を遵守した作業を行うよう指示しました。

令和7年3月のダイヤ改正では、最終列車の時刻は変更することなく一日の運行本数を1往復増便し、コロナ禍以前と同様にすることで、お客様の乗車機会を増やすこととしました。

次に営業損益について、定期、定期外を合わせた旅客収入、及び運輸雑収入による営業収益は、9,772万円(前期比+676万円、107.4%)。

営業費用は、2億6,003万円(前期比+3,405万円、110.2%)でした。

これにより、営業損益は、1億6,231万円の損失（前期比2,780万円の損失拡大）でした。また、お客様の全体のご利用人員は、34万8千人（前期比+4万人、113.0%）でした。

旅客収入のうち定期外の収入確保、利用促進の取組みとして、鉄道開業90周年の節目の年にあたることから年間を通して様々な記念事業を展開しました。

「明知鉄道開業90周年記念 感謝」として割引一日フリー乗車券を発売し、これまでの感謝と共にこれを契機として、お得にご利用いただきました。また、7月から11月まで一日フリー乗車券を購入して頂いたお客様を対象に「おかげさまスタンプラリー」用紙を配布し、恵那駅、岩村駅、明智駅に設置してある専用スタンプを集めることで参加賞としてオリジナルマグネットをもれなく進呈しました。加えてWチャンスとして企画した沿線地域の振興を兼ねた特産品プレゼント抽選には693名の応募があり、10名に贈呈しました。また、「開通90周年記念 #あけてつフォトコンテスト」では11部門に514作品の応募があり、それぞれ最優秀賞、優秀賞を贈呈しました。更に、11月には明智駅にてSLふれあい見学、車庫内車両床下見学、線路保守用車両見学乗車体験、各鉄道会社グッズ即売会など「開通90周年記念イベント」を開催しました。グッズ販売では近年にない販売実績を上げることが出来ました。

また、SLに関する話題提供、機運醸成として令和7年3月には明智駅構内で「あけてつ春のSLフェスティバル」と題したイベントを開催しました。この時、恵那観光大使であり明知鉄道名誉顧問としてメディア界で活躍されている市川紗椰さんをはじめ、鉄道タレント3人をお招きしました。市川さんにはファンと交流出来る列車内のトークショーの他、SL構内運転では運転室に乗車していただくなど、一日中ファンとの交流に取り組んでいただき、大盛況となりました。なお、当日はSLファンクラブ入会特別受付を実施しました。

料理列車については、メディアを通じて情報発信を継続的に行うと共に工務区社員、アテンダントなど関係社員が積極的にもてなしに取組みました。また、近年の諸物価高騰において乗車料金に見合う、あるいはそれ以上の価値や満足感が得られるという認識が広がった結果、平成28年以降最も多い12,000名を超えるご利用がありました。

地域観光との「連携・協働」として移動手段の多様化については、9月より「鉄道」と「自転車」を融合させたサイクルトレインに取組みました。乗車時間帯を土日、祝日の午前中のみとしていることから限定的ではあるものの、継続することで今後の展開に繋がります。

また、4月には「JRさわやかウォーキング」、5月「おんさいまつり・光秀まつり」、9月「みのじのみりまつり」、11月「WRC」など沿線地域で開催されるイベントにあわせ企画切符の設定、駅張りポスター等を展開し利用促進と共に地域の活性化につなげました。

この結果、定期外収入は5,604万円（前期比+116万円、102.1%）。

また、ご利用人員は昨年度と同じ15万8千人（100.3%）でした。

定期収入のうち通学定期については、恵那市は令和6年4月から少子化対策の推進と子育て支援として保護者が負担する通学定期券購入費用のうち、1カ月あたり5,000円を超える部分を助成する制度を設けました。この影響は大きく、家族の送迎から鉄道へシフトし、通学定期収入は2,872万円（前期比+586万円、125.6%）。ご利用人員は17万9千人（前期比+3万9千人、127.4%）でした。

通勤定期収入は284万円（前期比+15万円、105.4%）。ご利用人員は1万1千人（前期比+1千人、109.8%）でした。

全体の定期収入は3,155万円（前期比+601万円、123.5%）。ご利用人員は19万人（前期比+3万9千人、126.3%）。

営業費用について人件費は、社会動向を考慮し賃金アップに取り組んだことにより9,657万円（前期比+302万円、103.2%）となりました。

約4割を占める修繕費については、1億618万円（前期比+4,001万円、160.5%）でした。

このうち線路修繕は、軌間拡大による列車脱線事故防止を図るため、令和元年度から進めている半径200m以下の急曲線部へのPCマクラギ敷設は、岩村～花白温泉間へ実施し3,655万円（前期比+616万円、120.3%）でした。

車両修繕は、10型車両2両の定期修繕を実施したことから、車両修繕引当金を活用して平準化を図り4,234万円（前期比+2,049万円、193.8%）でした。

信号通信関係の修繕について、東野～阿木間の老朽化した通信ケーブルを更新し、通信環境の安定化を図り2,514万円（前期比+1,154万円、184.9%）でした。

その他、明智駅社員休憩室は三セク化以前の環境であったことから、内装を刷新し職場環境改善に取り組みました。

業務費については、県地方鉄道経営安定化補助金事業を活用して、明知線開通90周年イベント事業等に取り組んだ他、地域公共交通確保維持改善事業費補助金を活用し旅客車両室内灯のLDE化をすすめ、3,283万円（前期比▲753万円、81.3%）でした。

営業外収益の確保について、新たなイベント企画としてキッズ運転士体験を8月に実施しました。これまで中学生以上の条件で「気動車運転体験」を開催していましたが、保護者同伴とした上、対象年齢を5才以上という条件で開催しました。夏休み期間中ということもあり、新たなニーズを掘り起こしになりました。また、「SL運転体験」はSLファンクラブ会員を中心に根強い人気があります。

また、料理列車等の取扱手数料が増えたことにより営業外収益は、3,636万円（前期比+233万円、106.8%）でした。

営業外損益は、2,698万円の利益（前期比+363万円、115.5%）となりました。

これにより、鉄道事業の経常損益は、1億3,533万円の損失（前期比2,505万円の損失拡大）でした。

特別損益について、鉄道施設総合安全対策事業補助金をはじめとして、県からは地方鉄道経営安定化事業費補助金、燃料価格高騰対策支援金などによる特別利益、及び特別損失として固定資産圧縮損失などを計上しました。

特別損益は、1億2,620万円の利益（前期比+2,024万円、119.1%）となりました。

この結果、鉄道事業における税引前当期純損益は、914万円の損失（前期比481万円の損失拡大）となりました。

2 かんてんかん事業

かんてんかん事業について、全体の売上高は、5,128万円（前期比▲158万円、97.0%）でした。

年間を通して提供している料理列車は、令和6年度から「きのこ列車」、「じねんじょ列車」「枿酒列車」の利用料金を500円値上げしたこと。また、ご利用が堅調であることから売上高は、2,108万円（前期比+146万円、106.9%）。となりました。

喫茶売上については、料理列車対応を優先したことによる要員不足や手狭なバックヤードにより昼メニューを限定せざるを得なかったこと等から、売上高は514万円（前期比▲70万円、88.0%）となりました。

売店・小売では、小里川ダム管理支所の協力により令和5年度から取組んでいる域学連携事業において、麗澤瑞浪中学・高校生徒が考案した新商品「小里川ジャムジャム」は、令和7年2月円筒形のガラス容器に2種類のジャムを2層に仕立て、お土産品として完成させ商品の充実に努めました。

また、地域イベントに合わせ「WRC 山岡駅エリア」、「みのじのみのもりまつり」など出店し増収に取り組みました。

なお、「山岡駅かんてんかん」はリニューアルオープンから10周年を迎えることとなり、お中元ギフトと兼ねて新聞折込み宣伝を実施しました。7月20日から31日まで記念事業として、期間中に来店いただいたお客様全員にもれなく記念品をプレゼント、店内商品の割引、また期間限定のスイーツ「水のチーズケーキ with 小里川」等の限定販売に取り組みました。これにより売上高は、645万円（前期比▲160万円、80.1%）。となりました。

卸、委託に関しては、「道の駅おばあちゃん市・山岡」、「えなてらす」などでの商品の動きは比較的堅調で、売上高は1,326万円（前期比▲75万円、94.7%）となりました。

売上損益については、細寒天をはじめとした原材料費の高騰があったものの3,277万円の利益（前期比+21万円、100.6%）でした。

販売費・一般管理費は、空調設備、運搬用エレベーター等の老朽化に伴う修繕費の増加、また電気料、損害保険料の上昇などがあったものの2,949万円（前期比▲38万円、98.7%）

でした。

これにより営業損益は、328万円の利益（前期比+59万円、121.9%）となりました。

この結果、営業外損益を加えた税引前当期純損益は、343万円の利益（前期比+37万円、112.1%）となりました。

3 バス事業

バス事業について、自主運行バスにおいては恵那市から受託している明智町内「阿妻・横通線」、「明智・峰山線」、「明智まちなか線」3路線ご利用は、1日当たり4.16人（前期比+0.4人、110.6%）、年間1,011人（前期比+97人、110.6%）。

また「デマンド交通よやくる号」では、ご利用人数479人（前期比+190人、165.7%）でした。なお、「デマンド交通」の利用については、曜日によって運行地域が限定されていましたが、調整の上10月から限定を解除し平日の全曜日利用可能、及び前日までの予約を当日予約が出来ることとしました。この結果、下半期には286人（前期比+117人、169.2%）という実績となりました。

各運行による運輸収入は31万円（前期比+7万円、130.9%）となりました。

スクールバス運営については、恵那西中、北中、上矢作小、山岡小、明智小中学校のスクールバス事業を担当し、教育委員会と一層の連携を図り、安全かつ効率的なスクールバス運営に努めました。また、事業拡大を視野に入れる中で乗務員は高齢社員が多いことから、健康・体調管理により、一層の安全運行に取り組むと共に適切な人材確保に取り組みました。

営業収益は6,269万円（前期比+124万円、102.0%）。このうち、自主運行バスに関する営業収益は運賃収入、補助金を合わせ1,288万円（前期比+196万円、117.9%）でした。また、スクールバス委託収益は4,981万円（前期比▲72万円、98.6%）。

一方、営業費用は、運行管理者、運転手の人件費、増車による車検等車両修繕費、動力費の増により5,701万円（前期比+134万円、102.4%）となりました。

この結果、税引前当期純損益は571万円の利益（前期比▲5万円、99.2%）となりました。

4 コンシェルジュ事業

コンシェルジュ事業について、令和6年度の入電件数924件のうち約7割がデマンド予約であり、その他に巡回バスの運行ルートや運行時間の照会、乗車料金、定時・デマンド以外の交通関係の問合せに対応しています。また、交通政策課が毎月開催している交通会議において、利用されるお客様からの要望事項、苦情等を報告しています。この中で明智地域のデマンド運行について、曜日によって運行地域が限定されていましたが、調整の上10月から限定を解除し平日の全曜日利用可能、及び前日までの予約を当日予約が出来ることとしました。この結果、利用者は改正前と比べ倍増しました。

年度末にはバス・鉄道年間利用券（ワンコインパスポート、グリーン会員券）購入・乗り方説明会を3日間、明智駅にて開催しました。延べ68名の参加者があり、全員がいずれかの年間利用券を購入していただきました。

また、「道の駅そばの郷らっせいみさと」「明智光秀ゆかりの地 明智町」など乗り継ぎ小旅4ルートを作成し、ホームページに掲載しました。

これに係る営業収益は、委託収入として506万円（前期比 増減なし）でした。一方、営業費用は人件費、業務費を含め425万円（前期比+32万円、108.1%）でした。

この結果、税引前当期純損益は82万円の利益（前期比▲31万円、72.4%）となりました。

貸 借 対 照 表

(令和7年3月31日現在)

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 221,514,596 】	【流動負債】	【 34,818,900 】
現金及び預金	47,109,843	買掛金	1,581,098
売掛金	899,989	短期借入金	0
商品	869,479	未払金	27,773,998
半製品	1,690,533	未払消費税等	0
原材料	2,528,416	未払法人税等	1,333,400
貯蔵品	16,356,513	前受金	1,209,900
立替金	18,495	前受運賃	1,320,040
前払費用	6,194,020	預り連絡運賃	38,750
釣銭準備金	382,000	預り敷金	960,000
前渡し金	76,000	預り金	601,714
未収入金	143,456,728	仮受金	0
未収運賃	1,932,580		
仮払金	0		
【固定資産】	【 30,451,104 】	【固定負債】	【 38,580,000 】
(有形固定資産)	(29,853,327)	車両等修繕引当金	36,654,000
建物	1,929,568	退職給与引当金	1,926,000
建物附属設備	118,233	負 債 合 計	73,398,900
構築物	13,892,678	純資産の部	
機械装置	21	【株主資本】	【 178,566,800 】
車両運搬具	4,893,353	資本金	200,000,000
工具器具備品	1,048,342	[利益剰余金]	
土地	7,971,132	(その他利益剰余金)	
一括償却資産	0	繰越利益剰余金	△ 21,433,200
(無形固定資産)	(489,237)		
電話加入権	125,600		
施設利用権	363,637		
(投資その他の資産)	(108,540)	純 資 産 合 計	178,566,800
長期預託金	48,540		
差入保証金	60,000		
資産の部計	251,965,700	負債及び純資産の部計	251,965,700

貸借対照表(事業別表)

(単位: 円)

項目	会社合計	事業別内訳表			
		鉄道事業	寒天事業	バス事業	コンシエルジュ事業
現金・預金	47,109,843	28,739,232	11,127,153	2,819,427	4,424,031
売掛金	899,989	0	899,989	0	0
商品	869,479	0	869,479	0	0
半製品	1,690,533	0	1,690,533	0	0
原材料	2,528,416	0	2,528,416	0	0
貯蔵品	16,356,513	16,354,863	1,650	0	0
立替金	18,495	0	18,495	0	0
前払費用	6,194,020	6,194,020	0	0	0
釣銭準備金	382,000	382,000	0	0	0
前渡し金	76,000	0	0	76,000	0
未収入金	143,456,728	127,524,201	0	15,511,190	421,337
未収運賃	1,932,580	1,932,580	0	0	0
仮払金	0	0	0	0	0
流動資産合計	221,514,596	181,126,896	17,135,715	18,406,617	4,845,368
建物	1,929,568	1,929,568	0	0	0
建物附属設備	118,233	118,233	0	0	0
構築物	13,892,678	13,892,678	0	0	0
機械装置	21	21	0	0	0
車両運搬具	4,893,353	4,533,675	2	359,676	0
工具器具備品	1,048,342	563,594	201,252	283,496	0
土地	7,971,132	7,971,132	0	0	0
一括償却資産	0	0	0	0	0
有形固定資産計	29,853,327	29,008,901	201,254	643,172	0
電話加入権	125,600	125,600	0	0	0
施設利用権	363,637	363,637	0	0	0
ソフトウェア	0	0	0	0	0
無形固定資産計	489,237	489,237	0	0	0
長期前払費用	0	0	0	0	0
長期預託金	48,540	17,260	11,880	19,400	0
差入保証金	60,000	0	60,000	0	0
投資その他の資産	108,540	17,260	71,880	19,400	0
固定資産合計	30,451,104	29,515,398	273,134	662,572	0
資産合計	251,965,700	210,642,294	17,408,849	19,069,189	4,845,368
買掛金	1,581,098	0	1,581,098	0	0
短期借入金	0	0	0	0	0
未払金	27,773,998	19,942,363	3,178,942	4,357,087	295,606
未払消費税等	0	0	0	0	0
前受金	1,209,900	1,209,900	0	0	0
前受運賃	1,320,040	1,320,040	0	0	0
預り金	601,714	286,141	68,183	247,390	0
預り敷金	960,000	960,000	0	0	0
預り連絡運賃	38,750	38,750	0	0	0
仮受金	0	0	0	0	0
未払法人税等	1,333,400	1,333,400	0	0	0
流動負債合計	34,818,900	25,090,594	4,828,223	4,604,477	295,606
車両等修繕引当金	36,654,000	36,654,000	0	0	0
退職給与引当金	1,926,000	1,786,850	0	139,150	0
固定負債	38,580,000	38,440,850	0	139,150	0
負債合計	73,398,900	63,531,444	4,828,223	4,743,627	295,606
資本金	200,000,000	200,000,000	0	0	0
繰越損益	△ 19,591,343	△ 98,863,899	32,566,803	44,798,009	1,907,744
当期純損益金額	△ 1,841,857	△ 11,796,345	3,429,819	5,707,212	817,457
利益剰余金合計	△ 21,433,200	△ 110,660,244	35,996,622	50,505,221	2,725,201
株主資本合計	178,566,800	89,339,756	35,996,622	50,505,221	2,725,201
純資産合計	178,566,800	147,110,850	12,580,626	14,325,562	4,549,762
負債・純資産合計	251,965,700	210,642,294	17,408,849	19,069,189	4,845,368

損益計算書

自令和6年4月1日 至令和7年3月31日

(単位：円)

科 目	金	額
【営業収益】	216,759,176	
【営業費用】	369,314,755	
営業損益合計		△ 152,555,579
【営業外収益】		
受取利息	51,371	
その他収益	36,487,725	
営業外収益合計	36,539,096	
【営業外費用】		
雑支出	9,404,518	
支払利息	0	
営業外費用合計	9,404,518	
営業外損益合計		27,134,578
経常損益		△ 125,421,001
【特別利益】		
設備投資国庫補助	28,141,902	
地方公共団体補助	77,367,248	
沿線市負担分（輸送高度化等）	24,396,248	
明知鉄道経営対策補助金	19,591,343	
その他補助金	563,000	
固定資産売却益	27,273	
特別利益合計	150,087,014	
【特別損失】		
固定資産圧縮損	20,529,069	
その他特別損失	3,314,501	
特別損失合計	23,843,570	
特別損益合計		126,243,444
税引前当期純損益		822,443
法人税、住民税及び事業税		2,664,300
当期純損益		△ 1,841,857

損益計算書（事業別表）

（単位：円）

項 目	会社合計	事業別内訳表			
		鉄道事業	寒天事業	バス事業	コンシェルジュ事業
営業収益計	216,759,176	97,722,065	51,281,114	62,692,803	5,063,194
営業費計	369,314,755	260,030,142	48,003,216	57,035,442	4,245,955
営業損益金額	△ 152,555,579	△ 162,308,077	3,277,898	5,657,361	817,239
受取利息	51,371	38,968	7,961	4,224	218
その他収益	36,487,725	36,321,651	166,074	0	0
営業外収益計	36,539,096	36,360,619	174,035	4,224	218
雑支出	9,404,518	9,383,620	20,898	0	0
支払利息	0	0	0	0	0
営業外費用計	9,404,518	9,383,620	20,898	0	0
営業外損益金額	27,134,578	26,976,999	153,137	4,224	218
経常損益金額	△ 125,421,001	△ 135,331,078	3,431,035	5,661,585	817,457
固定資産売却益	27,273	0	0	27,273	
補助金	150,059,741	150,040,741	0	19,000	0
特別利益計	150,087,014	150,040,741	0	46,273	0
固定資産圧縮損	20,529,069	20,529,069	0	0	0
その他特別損失	3,314,501	3,314,500	0	1	0
特別損失計	23,843,570	23,843,569	0	1	0
特別損益金額	126,243,444	126,197,172	0	46,272	0
税引前当期純損益金額	822,443	△ 9,133,906	3,431,035	5,707,857	817,457
法人税等	2,664,300	2,662,439	1,216	645	0
当期純損益金額	△ 1,841,857	△ 11,796,345	3,429,819	5,707,212	817,457

株主資本等変動計算書

自令和6年4月1日 至令和7年3月31日

(単位：円)

	株主資本			純資産合計
	資本金	利益剰余金	株主資本 合 計	
		その他利益剰余金		
		繰越利益剰余金		
前期末残高	200,000,000	△ 19,591,343	180,408,657	180,408,657
当期変動額				
当期純損益		△ 1,841,857	△ 1,841,857	△ 1,841,857
当期変動額合計		△ 1,841,857	△ 1,841,857	△ 1,841,857
当期末残高	200,000,000	△ 21,433,200	178,566,800	178,566,800

上記の通りご報告申し上げます。

明知鉄道株式会社
代表取締役社長 小坂 喬 峰

個 別 注 記 表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品 最終仕入原価方法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物
(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日
以降に取得した建物附属設備及び構築物については、
法人税法に規定する方法と同一の基準による定額法
によっております。

無形固定資産 定額法

3. 引当金の計上基準

退職給付引当金は、従業員退職金の支出に備えるため、自己都合退職による期末要支給額を基礎として当期対応分を見積り計上しています。

車両等修繕引当金は、将来の修繕費に備え当期対応分を計上しております。

4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によって
おります。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額 107,159,382円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

事業年度末日における発行済株式総数

普通株式

4,000株

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額 44,641円70銭

2. 1株当たり当期純利益 ▲460円46銭